

19 世紀英国におけるバドミンントンの誕生と普及に関する研究 —1874 年の動向を中心として—

松井 良明

Historical Study on the Birth and the Spread of 'Badminton' in 19th -century Britain : An Analyses of the Advertisements and the Articles on the British Newspapers in 1874

Yoshiaki MATSUI

It's unknown of the details on the birth and the spread of Badminton in Britain yet. In this paper I show the new historical facts relating to that through the examination of the advertisements and the articles on the British Newspapers in 1874.

We cannot find out the description of 'Badminton' as the name of game on the British newspapers before 1873. The first advertisement was one by James Lillywhite on the Cheltenham Looker-On (7th June, 1973, p.3). The number of shops that advertised on the newspaper for the equipment of Badminton was four retailers including Lillywhite in 1873. They had described Badminton as one of the 'new', 'summer', and 'out-door' games.'

The number of the advertisement and the articles on Badminton increased drastically in 1874. I have detected 447 advertisements and 33 articles on the newspapers and gotten the following conclusions.

It's incorrect to say that Badminton replaced the superiority of Croquet in British Society and Lawn Tennis became a British national amusement in 1874. However Badminton had become known as one of the new active out-door games for both sexes by the end of 1874 in Britain. And the situation had occurred a year ahead of the spread of Lawn Tennis in 1875.

1. はじめに

初期の「バドミンントン」の歴史については不明な点が多い。「インド起源説」と「イングランド起源説」の存在が示すように、その誕生をめぐるは今なお不明確な記述が混在する状況が続いている。

これに対し、バドミンントン協会（1893 年）によるルール統一以前に存在した 11 のローカル・ルール（1874～1883 年）を検討した蘭は、1874 年にイングランドで紹介された「インドのバドミンントン・ゲーム（The Game of Badminton in India）」がすでにネット型のゲームであり、サーヴ権（「ハンド」と呼ばれた）を有する側のみ得点が得られる「サイド・アウト（イニング）制」を採用していたこと、また点数の方式がいわゆるラケットスコアと同様であることを示し、後のアソシエーション式ルールに継承される特徴の一部がすでに備わっていたことを明らかにしているが、ここでも書誌的な誤りが散見される。

本研究の目的は、これまでほとんど使われてこなかった英国国内で発行された新聞記事と広告に着目し、とくに 1874 年の動向を中心に検討することで、英国国内における

「バドミンントン」の普及に関する新たな知見を得ることにある。

2. 方法

本研究では、19 世紀英国における動向を知る手掛かりとして、同時代に発行された新聞記事と広告に着目する。現在、英国では British Newspaper Archive により、新聞記事の電子化が順次進められており、インターネットを介した閲覧サービスが提供されている。今回はこのサービスを利用して対象年の新聞記事及び広告の検討を行った。

3. 結果

(1) 1873 年の広告と記事

検索の結果、1872 年以前の新聞にはゲーム名としての「バドミンントン」に関する記事と広告は見当たらず、最も早い記載は 1873 年 6 月 7 日付の『チェルトナム・ルッカーオン』紙〔以下、CL〕に掲載されたスポーツ用具店「ジェイムズ・リリーホワイト〔以下、「リリーホワイト」〕」

による広告であった。そこでは「新ゲーム」の名称が「バドミントン、ないしはローン・ラケット (Badminton, or Lawn Racquets)」とされた。なお、この年に「バドミントン」に関する広告を新聞に掲載した販売業者は「リリーホワイト」を含めて少なくとも4店にのぼるが、「リリーホワイト」以外の3つの販売店(「グラント・ブラザーズ」、「ジャック・アンド・サン」、「A・T・リーズ」)による広告が出されるのはいずれも12月以降のことであった〔表1を参照〕。

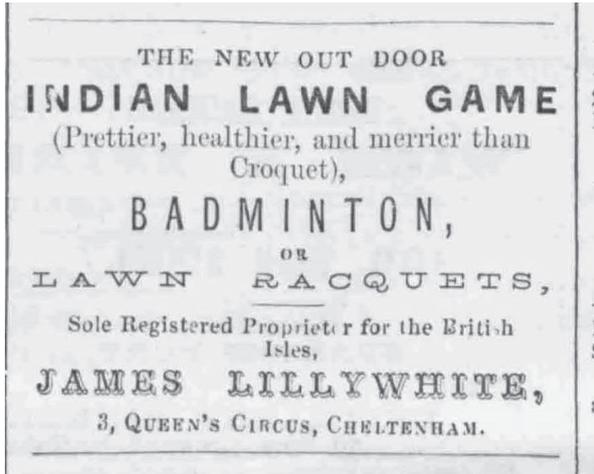


図1 「リリーホワイト」による「バドミントン」の広告
出典：Cheltenham Looker-On, 6/7, p.3.

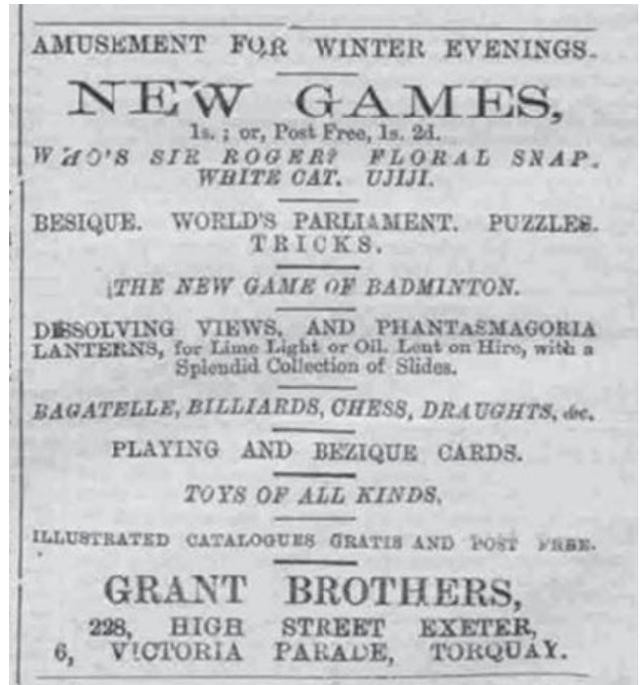


図2 「グラント・ブラザーズ」による広告
出典：Exeter and Plymouth Gazette, 12/5, 1873, p.4.

表1 1873年における「バドミントン」の広告件数

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
CL	4	4	5	4	4	4	0	25
CC	0	0	0	0	0	3	5	8
EPG	0	0	0	0	0	0	2	2
LES	0	0	0	0	0	0	2	2
LJ	0	0	0	0	0	0	4	4
合計	4	4	5	4	4	7	13	41

*CL: Cheltenham Looker-On, CC: Cheltenham Chronicle, ERG: Exeter and Plymouth Gazette, LES: London Evening Standard, LJ: Leicester Journal

表2 1873年における「バドミントン」に関する記事の掲載紙一覧

- ① 7/23 Taunton Courier, and Western Advertiser, Somerset, p.7
- ② 7/24 Bath Chronicle and Weekly Gazette, Somerset, p.2
- ③ 7/26 Tamworth Herald, Staffordshire, p.2
- ④ 7/26 Alnwick Mercury, Northumberland, p.2
- ⑤ 10/22 Western Daily Press, Bristol, p.2

これに対し、1873年に英国で出された新聞記事の中で、「バドミントン」への言及が確認できたのは全部で5篇であるが、その内の4篇はすべて同じ内容だった。掲載順に『トントン・クーリエ・アンド・ウェスタン・アドヴァタイザー』紙(7月23日付、7頁)、『バース・クロニクル・アンド・ウィークリー・ガゼット』紙(7月24日付、2頁)、『タムワース・ヘラルド』紙(7月26日付、2頁)、そして『アニック・マーキュリー』紙(7月26日付、2頁)の4紙であり、いずれも同年7月23日以降のことである。記事の

内容を大まかに要約すると、以下のようになる。

- ① 「バトルドア・アンド・シャトルコック」の「新ゲーム」が紹介された。
- ② このゲームが最初に行われた公爵の大邸宅に敬意を表し、そのゲーム名は「バドミントン」と呼ばれる。
- ③ 「バドミントン」は男女が一緒にプレイできるゲームである。
- ④ 「バドミントン」は屋内でも実施できる。
- ⑤ 「バドミントン」はサイドsideによるゲーム〔チーム戦〕

である。

「バドミンントン」が新聞紙上に登場する1873年6月以降、12月までに広告が掲載された新聞は全国で5紙に過ぎず、その大半は「リリーホワイト」によるチェルトナムの2紙(CL及びCC)に集中しており、「バドミンントン」の英国内での知名度はまだ限定的だったと考えられる。だが、そのような状況が1874年に入ると一変する。

(2) 1874年の広告と記事

1874年に「バドミンントン」に関わる広告が掲載された新聞とその件数をまとめたのが表3である。

表3が示すとおり、1874年になると「バドミンントン」に関する広告を掲載した新聞の数は22紙に増加する。一年間で最も多くの広告を掲載したのは、『エクセター・アンド・プリマス・ガゼット』紙であり、広告主は「A・ウィバー」と「グラント・ブラザース」である(内訳は前者が40回、後者が56回)。なお、「グラント・ブラザース」は『ウェスタン・タイムズ』紙と『エクセター・フライング・ポスト』紙にも広告を出しており、併せると計66回の広告を出していた。

一つの店で同様の数の広告を出していたのが「リリーホワイト」である。同店は9月から12月にかけて同じチェルトナムのCLにも別の広告を出しており、両方を合わせるとやはり66回となる。ただし、「リリーホワイト」の広

告の出し方は「ビンガム」とは異なり、およそ週一回のペースですべての月に広告を出している。CCに掲載された広告の内容を見てみると、一貫しているのは「バドミンントン」を「新しいNew」、「屋外のOut-door」ゲームとしている点である。なお、興味深いのは、前年の広告から「バドミンントン、ないしはローン・ラケット(Lawn Racquets)」というゲーム名を使用していた彼が、9月以降のCLにおける広告では、「バドミンントン、ないしはレディース・ラケット(Ladies' Racquets)」と名称を変更している点である。これは「バドミンントン」が女性向けのゲームであることを示すとともに、彼自身が「ローン・ラケット」という名称の普及を断念したことを示唆しており、注目に値する。

なお、表3の中で3番目に広告数が多かったのは「バーミンガム・デイリー・ポスト」紙〔以下、BDP〕であるが、同紙に広告を掲載した販売店の一つではなく、次の3つの業者であった。「パウエル商会」(4/16～7/9まで計13回)、「オリジナル・シヴェット・キャット」(6/1～7/10まで計6回)、「ホーキーズ」(8/6～9/10まで計7回)である。

これに加え、「オリジナル・シヴェット・キャット」の経営者であるマンフォートが自ら出版したルール・ブックの広告が6月12日から7月13日まで計14回掲載されている。また「ホーキーズ」の広告は、「バドミンントン」をクリケット、アーチェリー、クロッカーと併記する素

表3 1874年における「バドミンントン」の広告件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
LJ	3												3
CC	4	4	5	4	4	5	4	4	5	4	4	5	52
LES	1			3	1	7	1	9					22
GJ			3	4	4	4	2	2	4				23
TG			1										1
NC				4	4	3							11
BDP				1	3	17	12	5	2				40
WI				2	1	2	3						8
NE				5	1								6
EPG				7	40	19		4	21	5			96
AJ					1			2					3
HLO					4								4
IWO					2	4	2	5	3	5			21
BCW				5	4	5	5	3	1			1	24
LSC						3	4	5	2				14
MP						13	6						19
WDP						7	24	25					56
FJ						1	2	3				1	7
WG							1	4	4	4			13
WT								1	4	2			7
EFP									3				3
CL									2	4	4	4	14
合計	8	4	9	35	69	90	66	72	51	24	8	11	447

*LJ: Leicester Journal, CC: Cheltenham Chronicle, LES: London Evening Standard, GJ: Grantham Journal, TG: The Graphic, NC: Newcastle Courant, BDP: Birmingham Daily Post, WI: Wiltshire Independent, NE: Northern Echo, EPG: Exeter and Plymouth Gazette Daily Telegrams (Exeter and Plymouth Gazette), AJ: Aberdeen Journal, HLO: Hastings and St Leonards Observer, IWO: Isle of Wight Observer, BCW: Bath Chronicle and Weekly Gazette, LSC: Leamington Spa Courier, MP: Morning Post, WDP: Western Daily Press, FJ: Freeman's Journal, WG: Western Gazette, WT: Western Times, EFP: Exeter Flying Post, CL: Cheltenham Looker-On.

っ気無い内容だったが、「パウエル商会」は「バドミントン」を「新しいバドミントン・ゲーム (The New Game of Badminton)」と記しており、さらに「オリジナル・シヴェット・キャット」は「あらゆるところで行われているバドミントンは、新しく、今シーズンで最も興味深いゲーム、少ない芝やグラウンドで行える」との宣伝文を記した。

このように、1874年に「バドミントン」に関する広告を掲載した新聞は少なくとも22紙以上に上るが、一つの新聞に複数の店が広告を掲載する場合もあり、関連商品を扱う商店はさらに多かったことはいままでもないだろう。

全体的な傾向としては、「バドミントン」が「新しいゲーム (New Game)」であることを明記した広告が多く、時期が遅くなるほど、単に「バドミントン」とする記述が増える傾向にあった。また、広告数そのものは6月から8月にかけてが最も多かった。これは「バドミントン」が「屋外」でも行える「夏のゲーム」として大いに宣伝されたことと関連していよう。5月6日付の『アバディーン・ジャーナル』における「R・コリー」は「バドミントン」をはっきりと「クロッカーのライヴァル」と記していた。

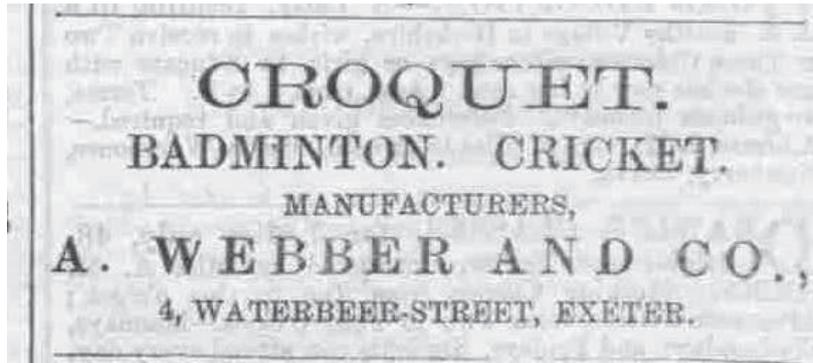


図3 「A・ウィバー」による広告
出典：Exeter and Plymouth Gazette Daily Telegrams, 4/25, 1874, p.1.

CRICKET.
BATS, BALLS, WICKETS, PADS, GLOVES, NETS, &c.
Illustrated and Priced Catalogues Post Free.

CROQUET.
Small Size, 15s. and 18s. Full Size, 21s., 25s., 30s., 35s.,
45s. Club Sets, 55s., 63s.
Repairs and Re-painting executed.

BADMINTON.
Full Sets, 20s., 30s., 40s., 55s., 63s.
All the materials can be had separately.
Descriptive List, Gratis and Post Free.

PERAMBULATORS.
Complete with Strap, Apron, Mat, &c.
WOOD } Single, 25s., 30s., 35s., 43s., 50s., and 60s.
BODY, } For Two Children, 5s. extra.
Sheet of Designs on application.
CASH DISCOUNT, 5 PER CENT.

GRANT BROTHERS,
EXETER: 228, HIGH STREET.
TORQUAY: 6, VICTORIA PARADE.

図4 「グラント・ブラザーズ」による広告
出典：Exeter and Plymouth Gazette Daily Telegrams, 4/28, 1874, p.1.

OUT-DOOR GAMES AND SPORTS.

JAMES LILLYWHITE
 3, QUEEN'S CIRCUS, CHELTENHAM.

Aldred's Archery Goods	Sole Agent.
Muir's Arrows	Sole Agent.
Cavendish Croquet & Mallets (Prince's Make)	Sole Agent.
Jacques' Croquet-	London Prices.
Lillywhite's Cricket and Racquet Goods	London Prices.

ILLUSTRATED PRICE LISTS POST FREE.

THE NEW
GAME OF BADMINTON; OR LAWN RACQUETS,

For Four, Six or Eight Players from 18s. 6d. to 98s.
 Stands and Cross Bars to adapt any of the above to an In-door Game from 7s. 6d. to 15s.
 Hints on the Game with Rules 6d. each.

CLUB CARDS 1s. 3d. PER PACK.

図5 「リリーホワイト」による広告
 出典：Cheltenham Chronicle, 3/31, 1874, p.1.

Favourite Summer Games.

CRICKET, CROQUET, ARCHERY, and the
 New GAME of **BADMINTON,** can be obtained,
 at London Prices, of **BUSH and SON,** Stationers and
 Relief Stampers, **WINE STREET, DEVIZES.** [7930.164.13]

図6 「ブッシュ・アンド・サン」による広告
 出典：Wiltshire Independent, 4/16, 1874, p.2.

The Game of "Badminton."
RIVAL TO CROQUET.

R. COLLIE has just got to hand a supply of
 this new Oriental Game, which has become so popular in
 England.
 121, Union Street.

図7 「R・コリー」による広告
 出典：Aberdeen Journal, 5/6, 1874, p.5.

表4 1874年における「バドミントン」の広告主一覧

業者	所在地	掲載紙	時期	回数
[イングランド]				
A・T・リーズ	レスター	LJ	1/2, 1/3	2
R・カーティス	レスター	LJ	1/2	1
ジェイムズ・リリーホワイト	チェルトナム	CC	1/6-12/29	52
同上	チェルトナム	CL	9/19-12/26	14
ジャック & サン	ロンドン	LES	1/13	1
コーマック・ブラザース	ロンドン	LES	5/12, 6/30	2
パーキンズ&ゴットーズ	ロンドン	LES	6/12-8/27	15
ミード商会	ロンドン	LES	8/25	1
E・ホワイト&サン	オークハム、メルトン	GJ	3/14-5/30	11
グランサム・バザール	グランサム	GJ	6/6-7/11	6
ノアズ・アーク	グランサム	GJ	8/8-9/26	6
J・スプラッツ	ロンドン	TG	3/28	1
J & H・ハリソン	ニューカースル	NC	4/3-6/26	11
パウエル商会	バーミンガム	BDP	4/16-7/9	13
オリジナル・シヴェット・キャット	バーミンガム	BDP	6/1-7/10	6
ホーキーズ	バーミンガム	BDP	8/6-9/10	7
ブッシュ&サン	デヴィズ (ウィルトシャー)	WI	4/16-7/23	8
F・E・ウォード商会	ダーリントン (ダラム州)	NE	4/21-5/2	6
A・ウィバー	エクセター	EPG	4/25-6/19	40
グラント・ブラザース	エクセター、トーキー	EPG	4/28-10/9	56
同上	エクセター、トーキー	WT	8/28-10/9	7
同上	エクセター、トーキー	EFP	9/2-9/16	3
セントラル・アーケイド	ヘイスティングス	HLO	5/9-5/30	4
C・キャントロ	ワイト島	IWO	5/23-7/11	8
ジャーマン&ボックス	ランドポート (ポーツマス)	IWO	8/1-10/31	13
シヴェット・キャット	バース	BCW	4/2-7/23	18
バース玩具店	バース	BCW	6/30-9/3	5
E・F・コリンズ	バース	BCW	12/17	1
ボウズ・アーチェリー店	レミントン	LSC	6/13-9/12	14
クレマーズ	ロンドン	MP	6/15-7/7	19
R・W・ビンガム	ブリストル	WDP	6/23-8/31	56
G・H・サンソム	サマセット	WG	7/24-10/23	13
[スコットランド]				
R・コリー	アバディーン	AJ	5/6, 8/5	2
ジオ・キャット	アバディーン	AJ	8/12	1
[アイルランド]				
ジョン・ローレンス	ダブリン	FJ	6/29-8/29	6
ロビンソン&サンズ	ダブリン	FJ	12/19	1

バドミントン用具を取り扱う業者は1874年には31店まで増加した。ほぼすべての広告に共通するのは、遅くとも1874年の9月以降は、「バドミントン」というゲームの名称が定着したように見えることである。広告全体を通して指摘できるのは、1874年の「夏のシーズン」までは多くの業者がバドミントンを「新ゲーム」として宣伝していたことである。したがって、この時点でのバドミンントンの位置づけは、クロッカー、アーチェリー、クリケットや新しく登場したローン・テニスと同じような「屋外ゲーム (Out-door games)」の一つだったと考えてよい。

では次に1874年に掲載された新聞記事の内容を見てみたい。この年の新聞に掲載された「バドミントン」に関する言及が見られた記事は全部で33篇に及んだ。

まずは3月31日に『バーミンガム・デイリー・ポスト』紙 [以下、BDP] に掲載された「ロンドンからの私信」である。この記事は長文で、バドミントンについて詳述して

おり、1874年の動向を知る上でたいへん示唆的な内容となっている。

「本紙の読者は、新ゲーム『バドミントン』が今シーズン流行する見込みであることを早め知るべきである。クロッカーはここしばらくの間、人気がなくなってきている。人びとはクロッカーがますますより厳粛な科学 (the severer sciences) の一つであるかのように見なされるにつれ、それがつまらなくなってきた (slow) との不平を述べている。クロッカーが人びとを空気が新鮮な屋外に連れ出すことは事実であるが、彼らがそこにいる際、クロッカーは最小限の運動を与えるにすぎない。今、ボーフォート公爵の邸宅で公表されたためにそう呼ばれるバドミントンは、両腕、首などの筋肉を活動させ、クロッカーの十倍の爽快さと刺激を生む。実際、バドミントンはバトルドア・アンド・シャトルロックがルールによって変えられ、技能のゲーム (game of skill) へと高められたもので、互いの



図8. 「インドにおける新ゲーム、バドミンントン」
出典：The Graphic, 4/25, 1874, p.13.

表5 1874年における「バドミンントン」に関する記事の掲載紙一覧

- | | | |
|-----|-------|---|
| 1) | 3/31 | Birmingham Daily Post, Birmingham, p.6 |
| 2) | 4/11 | Buckingham Advertiser and Free Press, Buckinghamshire, p.2 |
| 3) | 4/11 | Bury Free Press, Suffolk, p.6 |
| 4) | 4/11 | Tamworth Herald, Staffordshire, p.2 |
| 5) | 4/11 | Alnwick Mercury, Northumberland, p.2 |
| 6) | 4/11 | Hemel Hempstead Gazette and West Herts Advertiser, Hertfordshire, p.2 |
| 7) | 4/25 | The Graphic, London, p.5 |
| 8) | 5/4 | Morning Post, London, p.4 |
| 9) | 5/26 | London Evening Standard, London, p.2 |
| 10) | 6/1 | Morning Post, London, p.4 |
| 11) | 6/2 | Pall Mall Gazette, London, p.12 |
| 12) | 7/16 | London Evening Standard, London, p.6 |
| 13) | 7/20 | Dundee Courier, Angus (Scotland), p.3 |
| 14) | 7/21 | Dundee Courier, Angus (Scotland), p.6 |
| 15) | 7/26 | Reynolds's Newspaper, London, p.5 |
| 16) | 8/1 | Hemel Hempstead Gazette and West Herts Advertiser, Hertfordshire, p.5 |
| 17) | 8/4 | Bury and Norwich Post, Suffolk, p.8 |
| 18) | 8/8 | Reading Mercury, Reading, p.4 |
| 19) | 8/24 | Shetland Times, Shetland (Scotland), p.2 |
| 20) | 8/31 | Morning Post, London, p.6 |
| 21) | 9/3 | Yorkshire Post and Leeds Intelligencer, West Yorkshire, p.3 |
| 22) | 9/5 | The Graphic, London, p.15 |
| 23) | 9/5 | Sheffield Daily Telegraph, Sheffield, p.7 |
| 24) | 9/7 | London Evening Standard, London, p.6 |
| 25) | 9/8 | Bury and Norwich Post, Suffolk, p.8 |
| 26) | 9/12 | Grantham Journal, Grantham, p.8 |
| 27) | 9/12 | Reading Mercury, Reading, p.4 |
| 28) | 9/19 | The Graphic, London, p.14 |
| 29) | 9/21 | Sunderland Daily Echo and Shipping Gazette, Tyne and Wear, p.3 |
| 30) | 9/21 | Yorkshire Post and Leeds Intelligencer, West Yorkshire, p.3 |
| 31) | 10/17 | Pall Mall Gazette, London, p.7 |
| 32) | 12/26 | Preston Chronicle, Preston, p.5 |
| 33) | 12/26 | Lancaster Gazette, Lancashire p.8 |

サイド間で行われる (played between opposite sides)。互いのサイドは横に張られた一枚のネットによって仕切られている。ネットはプレイヤーが互いの突進 rushing と手を持つバトルドアでシャトルコックの代わりに相手を打つことを妨げるのに役立つ、その目的に適うものだ。」

この記事はこれ以外にも、バドミントンのルールに加え、ゲームの主な特徴を述べている。その一つは、この「新ゲーム」が「ダイニングルームやホールなどの屋内」でも、「芝の上や運動場といった屋外」でもプレイできることである。また、これが「ジェントルマンとレディ」が一緒にできるゲームであることにもふれていた。

さらに、同記事では、バドミントンの用具が市販されていることを紹介し、セットの中身と値段まで紹介している。興味深いのは、もっとも高級な用具セットにはルールブックが付いているとの指摘である。この時点で、英国では正式なルールは出版されていなかったものの、スポーツ商である「リリーホワイト」が1873年11月にCLに掲載した広告の中で自ら登録したルールについて記載しており、そのことを指していたのであろう。ルールについては、すでに1873年10月18日付の『フィールド』誌にインドのマレー及びシムラで行われていたルールが掲載されていたが、1874年の広告によると、バーミンガムのスポーツ商であるモンフォートが6月に自らルールを出版しており、ロンドンのスポーツ商であるクレマーも同じ月に『バドミントン—それが何であるか、そしていかにプレイするか』と題するパンフレットを印刷し、6シリングで販売するとの広告を出している(図9bを参照)。

同記事は最後にこう締めくくっている。「新ゲームのルールはまだ権威付けがなされておらず、読者の何人かはおそらく筆者が記したものよりさらに満足できるルールを指摘できるかもしれない。筆者としては、シャトルが飛び出す準備をし、読者の何人かに本当に健康

的な運動、そして男性と女性の両方にとって愉快的な遊戯を紹介できるなら、それで満足することにしよう。バドミントンはインドではすでにひじょうに人気が高くなっている。」

バドミントンが英国で「新ゲーム」として宣伝されたことはすでに紹介した広告でも確認したが、このゲームが英領インドで盛んに行われていたことを記す記事はじつはそれほど多くはなかった。一番詳しい記述を行っているのは、4月25日付の『グラフィック』紙の記事であり、題名も「インドにおけるバドミントン・ゲーム (The Game of Badminton in India)」であった。

この記事の冒頭でふれられているのもじつはクロッカーとの比較である。

「インドではクロッカーがすっかりバドミントンにとって代われ、いたるところでバドミントンの勝ち抜き戦と試合以外のことを聞くことはなく、老いも若きも等しくその遊戯に熱を入れている。」

6月2日付の『ペルメル・ガゼット』紙に記載された書評の一部でもやはり「インドのバドミントン」を「クロッカーの人気を脅かすゲームの一つ」とする記述があり、バドミントンの新奇性とクロッカーの衰退を指摘する記事は1874年3月から6月にかけて多く見られた。

たとえば、4月11日付の『バッキンガム・アドヴァタイザー・アンド・フリー・プレス』紙(バッキンガムシア)の記事は、やはり運動量の少ない「クロッカーがつまらない」のに対し、「新ゲーム」である「バドミントン」に流行の兆しが見られ、それがネットの効用によるものとする内容の記事を掲載しており、これと同じ内容の記事は同日の『ベリー・フリー・プレス』紙、『タムワース・ヘラルド』紙、『アニック・マーキュリー』紙、『ヘルム・ヘムステッド・ガゼット・アンド・ウェスト・ハーツ・アドヴァタイザー』紙にも掲載されている。



図9a. 「ザ・オリジナル・シヴェット・キャット (W. and F. C. Mountfort) による広告
出典: *Birmingham Daily Post*, 6/1, 1874, p.7.



図9b. 「ザ・オリジナル・シヴェット・キャット (W. and F. C. Mountfort) による広告
出典: *Birmingham Daily Post*, 6/12, 1874, p.1.

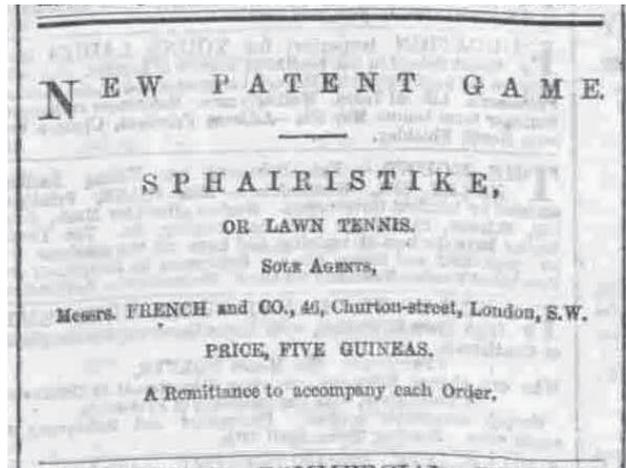


図10 「フランス商会」による“スファイリスティケ”の広告
出典：Sheffield Daily Telegraph, 4/25, 1874, p.7.

SPHAIRISTIKE, or LAWN TENNIS.
The best game brought out this century. Sole Agents, Messrs. FRENCH and CO., 46, Churton-street, London, S.W. An illustrated book of the game sent on receipt of six stamps.

SPHAIRISTIKE, or LAWN TENNIS,
by H.M.'s Letters Patent. To be obtained only from FRENCH and CO., 46, Churton-street, Pimlico. Price of box, containing court, with bats and balls, five guineas; extra sized, with press, and more bats and balls, 10 guineas. A remittance must accompany each order.

BADMINTON, LAWN TENNIS, CROQUET,
and every known Game, of the best manufacture, at CREMER'S, 27, New Bond-street. Any portions of the various games may be purchased separately. See Cremer's new brochure on "Badminton: What It Is, and How to Play It," price 6d.

図11. 「フランス商会」と「クレマーズ」による広告
出典：Morning Post, 6/15, 1874, p.11.

THE NEW GAMES.
ROYAL LETTERS PATENT.
SPHAIRISTIKE, OR LAWN TENNIS.
BADMINTON, OR LADIES' RACQUETS.

Prices from 18s. 6d. to £6. Stands and Cross Bars for IN-DOOR BADMINTON 7s. 6d. to 15s. Lawn Tennis or Badminton Racquets from 3s. 6d. to 42s. per Pair. Loaded and other SHUTTLECOCKS and BALLS from 2d. to 2s. 6d. each.

JAMES LILLYWHITE,
3, QUEEN'S CIRCUS, CHELTENHAM.

図12. 「リリーホワイト」による広告
出典：Cheltenham Looker-On, 9/19, 1874, p. 1.

4 結論

1874年の終わりまでにはローン・テニス、バドミントン、そして恒久的な人工スケートリンクを新しい流行として紹介する記事が見られ (MP, 8/31, p.6 ; PC, 12/26, p.5; LC, 12/26, p.8)、バドミントンとローン・テニスがいわば共存していた様子も示唆される。したがって、1874年の段階では、英国本国において「バドミントンがクロケットにとって代わった」とは言えず、「ローン・テニスが『国民的な娯楽』となる」との指摘もまだこの時点では憶測を超えるものではなかっただろう (図 10～12 を参照)。とはいえ、この年にバドミントンとローン・テニスが女性も参加可能な「屋外ゲーム」の選択肢を広げたことは事実だったと思われる。その主たる要因はゲームの「新奇性」、「女性の参加」、「活発さ」にあり、その背景には英国でのレジャー活動の社会的広がりに関連業者の積極的な宣伝活動があったといえる。またバドミントンは、わずか1年とはいえ、ローン・テニスに先駆けて登場した有力な「新ゲーム」だったといえよう。

参考文献

- Bernard Adams, *The Badminton Story*, 1980, British Broadcasting Corporation.
- Jean-Yves Guillain, *Badminton: An Illustrated History*, 2004, Publibook.
- Richard Holt, *Sport and the British : A Modern History*, 1989, Clarendon Press.
- Pamela Horn, *Pleasure & Pastimes in Victorian Britain*, 1999, Sutton Publishing.
- Mike Huggins, *The Victorians and Sport*, 2004, Bloomsbury.
- D. M. C. Prichard, *The History of Croquet*, 1981, Cassell.
- Nicky Smith, *Queen of Games: The History of Croquet*, 1991, Trafalgar Square.
- Helen Walker, *Lawn Tennis*, in Tony Mason (ed.), *Sport in Britain: A Social History*, 1989, Cambridge University Press, pp.245-275.
- Mary Ann Wingfield, *Sport and the Artist: Ball Games*, 1988, Antique Collectors Club Ltd.
- 阿部一佳、渡辺雅弘『バドミンントンの歴史に学ぶ』2010年、日本バドミントン指導者連盟。
- 蘭 和真、蘭 朝子「初期のバドミンントンのローカルルールに関する研究：1893年のバドミンントンの協会設立以前に考案されたルールの研究」、『東海女子大学紀要』15、1995年、15～36頁。
- 蘭 和真「バドミンントンの初期の歴史に関する一考察」、『東海学院大学紀要』4、2010年、11～17頁。
- 稲垣正浩編著『「先生なぜですか」 ネット型球技編0のことをなぜラブと呼ぶの?』1991年、大修館書店。
- 岸野雄三編集代表『最新スポーツ大事典』1987年、大修館書店。
- 松井良明『球技の誕生：人はなぜスポーツをするのか』2015年、平凡社。

松井良明「19世紀英国における新ゲーム『バドミンントンの誕生と普及に関する研究：1873年の動向について」、『奈良体育学会研究年報』20、2016年、48～53頁。
The British Newspaper Archive <http://www.britishnewspaperarchive.co.uk/>